

## V133a SKA プロジェクトに向けた科学検討3

廣田朋也, 赤堀卓也, 小林秀行, 河野裕介 (国立天文台水沢 VLBI 観測所), ほか国立天文台 SKA1 検討グループ

本講演では、SKA 計画のサイエンス検討についての進捗を報告する。国際的には、2019年4月に SKA General Science Workshop and Key Science Project Meeting が英国マンチェスターにて開かれ、SKA pathfinder や precursor を使ったサイエンスの進展が報告された。会議での議論の結果、SKA を使った 15 GHz から 50 GHz までの観測で可能となるサイエンスの検討を開始することとなり、その white paper が現在編集中である。2019年5月には、上海にて東アジア SKA サイエンスワークショップが開かれた。東アジア地域でのサイエンスの興味を意見交換し、分科会に分かれた議論が進められた。2019年10月には英国マンチェスターにて SKA VLBI Workshop が開かれ、SKA を VLBI の1局としたときのサイエンスや、その運用面での課題などを話し合った。2019年11月には上海にて SKA Shanghai Meeting 2019 が開催され、SKA Regional Center (SRC) に向けた各国の開発状況の報告があり、SRC の検討に向けたワーキンググループの設立、および、white paper の作成が進められている。日本国内では、2019年9月に SKA-JP シンポジウムが開催され、若手を中心とした多くの成果報告があった。それらの成果を盛り込んだ日本版 SKA サイエンスブックの改訂が始まっている。また、2019年11月の VLBI 懇談会シンポジウム、同年12月の VERA ユーザーズミーティングにおいても、SKA を将来計画の一つと位置づけて議論がなされた。以上について報告する。